2012年6月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第425号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

次世代の子どもにも手渡したい絵本のリスト『絵本の庭へ』

文・張替惠子（東京子ども図書館事務局長）

東京子ども図書館の職員と外部ボランティアが協力し7年がかりで編纂した『絵本の庭へ』(A5判　400頁　税込3,780円　3/30刊）が当初の予想を上回る売れ行きを見せている。

東京子ども図書館は子どもの読書を専門とする私立図書館で、1950年代から都内4ヵ所で始まった家庭文庫が母体となり1974年に設立、2010年には内閣府より公益財団法人の認定を受けた。子どもへの図書館サービスはもちろん、子どもの本に関わるおとなのためにも資料室の運営、講演・講座の開催、人材育成、出版等をおこなっている。その出版の柱のひとつに推薦図書リストの編纂がある。

代表格は石井桃子さん、瀬田貞二さんら先達の仕事を引き継いだ『私たちの選んだ子どもの本』。文庫判に絵本や物語の古典的作品680冊余りを収めた軽便なもので、図書館や文庫関係者だけではなく一般家庭でも愛用され版を重ねてきた。しかし、その版の刊行時に購入可能なものから選んでいるため、品切れ・復刊がめまぐるしい昨今、新情報を正確に反映させるのが難しくなってきた。

また、これまでにも、利用者から当館の蔵書目録を入手したいとの要望も寄せられていた。そこで、購入可・不可の枠を取り払って、どこの図書館でも蔵書の核としてそろえ、次世代に手渡してほしい普遍的価値のある本を記録に留めよう——それが今回の「児童図書館基本蔵書目録」シリーズ刊行の動機である。

1,157冊を厳選、戦後の絵本出版の果実を一望できる

その初巻『絵本の庭へ』には、当館の児童室や文庫で長らく子どもたちと楽しんできた1950年代以降の絵本を中心に、新しいものは2010年末までの刊行作品から1,157冊を厳選、戦後の絵本出版の果実を一望できるものとなっている。子どもと本をつなぐ仕事をしている方の本選びの参考になるほか、作家、画家、編集者ら本作りに携わる方たちも、これら珠玉の作品群をインスピレーションの源泉にしていただけたらと願っている。このリストには現在品切れ・絶版のものもかなり含まれているが、子どもたちに支持され続けてきた作品が再評価され、復刊の道が開けたらこんなに嬉しいことはない。

本書の内容構成を簡単に説明する。本編の絵本の配列は、図書館の書棚を意識して、画家名順。同一画家のもとでは書名順としている。全点に表紙写真（白黒）と簡潔な紹介文があるほか、巻末には、書名、人名に加え、件名索引を充実させた。件名とは本の主題を表すキーワードのことで、使用する「ことば」を定めた件名標目表を典拠に、個々の本から拾い出す。既成の標目表もあるが、成人利用や学習展開に重きを置いているため、当館では子どもが自由に楽しく読書することを念頭に、独自のものを考案した。

例えば、〈植物〉－〈木〉－〈ヤナギ〉、〈時〉－〈季節〉－〈夏〉というように、大・中・小項目に階層化し、近い概念が一覧できるようにした。〈登場人物〉－〈性格・人柄〉－〈食いしん坊〉には『くわずにょうぼう』や『11ぴきのねこ』、『くいしんぼうのはなこさん』などが並ぶ。そのそばにある〈うそつき〉、〈しりたがり〉、〈なまけ者〉などと合わせ個性派を取りそろえるのも面白い。見渡すと、ブックトークや展示のアイデアがひらめくかもしれない。また、2歳前後のごく幼い子や小学校中学年以上に向くものには各々の対象年齢マーク、お話会や学校訪問でグループに読んであげるのに向く作品には読み聞かせマークをつけるなど実践に役立つ工夫も心がけた。

デザイン担当の職員とじっくり煮詰めた装丁は、収録した作品にふさわしい美しさと見やすさを兼ね備えたものに仕上がった。ソフト上製の表紙にマットのフィルムカバーをかけた造本も、ほどほどの重量感で開きもよく、たびたび手に取る書誌として使い勝手の良いものになったと思う。

当館の出版物は、ボランティアで活動している方たちの負担にならないように、簡易な装丁で廉価に抑えるようにしているものがほとんどだ。本書の場合、

編纂に費やした労力は度外視しても、製本のための原価に一定の経費を乗せると、一般の主婦が気軽に支払える額には収まらない。となると、個人購入はさほど見込めず、図書館、学校など公共機関への販路を期待して初版1500部としたが、これは嬉しい誤算となった。当館の活動に日頃から関心を寄せてくださっている方たちからの先行予約が600超、取次・書店からも大量注文が入ったため、納品と同時に完売、即増刷をかけることになった。

ここ20年、日本の図書館現場では民間委託や雇用の非正規化が進み、児童サービス担当者が本来じっくり時間をかけて身につけるべき専門的な技能を磨くことが難しくなっている。一方、これを補完するように読み聞かせボランティアが裾野を広げている。官民いずれにせよ、更なる研鑽のために本書を手にして下さった方たちの熱意と期待に応えられるように、続く『物語の森へ』（昔話・古典・創作文学）、『知識の海へ』（ノンフィクション）の編纂に邁進しようと思う。

（はりかえ　けいこ／公益財団法人東京子ども図書館事務局長）

新刊ダイジェスト

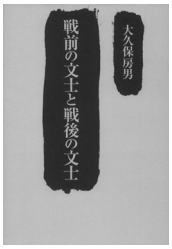
※価格は総額（税込）表示です。

『津軽学７号　－震災を生きる　津軽と災害』●赤坂憲雄ほか著

「津軽学」は「盛岡学」などと共に、福島県立博物館館長赤坂憲雄氏が提唱する東北学に呼応して立ち上げられた地域誌である。2005年の創刊で、地域やそこに住む人々が持つ記憶、民俗性、精神史に着目した視点に貫かれている。本号は昨年秋に開催された津軽学公開講座「震災を生きる津軽と災害」での基調講演とパネルディスカッションを中心に特集したもので、津軽の長い歴史の中に刻まれた震災、そして3.11の経験を学問の役割としてどのように生かしていくべきか、様々な立場から検証し、方向性を論じている。共通して指摘されることの一つに、コミュニティ交流の問題があることは印象的である。

◆1500円・A５判・191頁・**企画集団ぷりずむ**・青森・2012/3刊・ISBN978-4-9902754-7-1

『戦前の文士と戦後の文士』●大久保房男著



文藝誌『群像』の元編集長が、佐藤春夫や高見順、伊藤整等様々な文士たちとの交流のエピソードを織りまぜながら、戦後文壇の変遷について書き記す。「文壇の崩壊」という章では、著者が『群像』を退いて数年後、経済界の大物から、ある作家を藝術院会員にしたいから力を貸してくれるよう頼まれたというエピソードが紹介される。かつては俗物という否定評語があり、文士はそう言われるのを嫌って野党的であることに誇りを持っていたものだが、そんなことにこだわらない作家が出てきた、と著者は嘆き気味に言う。しかし、古きよき時代の文壇相手に思い通りに文藝誌の編集が出来て実に楽しかった、それでいいじゃないか、という言葉で本書を締め括っている。

◆2415円・四六判・239頁・**紅書房**・東京・2012/5刊・ISBN978-4-89381-273-5

『新島八重の生涯　－幕末のジャンヌ・ダルク』●吉村　康著

会津藩士の娘に生れ、聡明な母と武芸に卓越した長兄山本覚馬の影響を受けて男勝りに育った八重。戊辰戦争においては、戦死した弟の陣装束を纏って会津城に籠城し、射撃手として戦火をくぐる。滅藩後は同志社創立者新島襄の妻として学校発展に奔走。新島没後は日本赤十字社に加盟し、看護婦として日清・日露戦争に従軍。このような女性の生き方があったのかと唯唯圧倒される。これほどの人物でありながら、これまで伝記の類がなかった。覚馬伝など僅かなに残された資料を手がかりに丹念に断片を拾い集め、黎明期を颯爽と生き抜いた一人の卓抜な女性像を紡ぐ。最晩年、全所有物を同志社に寄付し、卒然と逝った。見事の一語に尽きる。

◆1680円・四六判・219頁・**歴史春秋社**・福島・2012/3刊・ISBN978-4-89757-780-7

『天災人災格言集　－災害はあなたにもやってくる！』●平井敬也（ヒライ　ヒロヤ）著

“天災は忘れた頃来る”“百年で出来る森林も、百分間に焼ける”“「助けて」と自分から言えない人を見つけることが一番大切”。本書は古今東西防災名言30選をはじめ、文化人、著名人、思想家宗教者など112人の名言を収録。災害用長期備蓄食（サバイバルフーズ）のネットショップの店長である著者が顧客に向けたメールマガジン『週刊防災格言』から選んで編集したもの。著者の兄家族は阪神大震災発生時、神戸在住だったが、無事であり、それがきっかけで“備えること”の重要性を強く意識するようになった。歴史的災禍や危機管理に関わった人々の言葉には力がある。家族や大切な人を守るために本書を活用したい。

◆1575円・四六判変形・253頁・**興山舎**・東京・2012/3刊・ISBN978-4-904139-64-6

売行良好書

期間：2012年4月16日～5月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『絵本の庭へ』3780円・東京子ども図書館　(2)『小出裕章　原発と憲法９条』1470円・遊絲社　(3)『絵本図書館　新装版』2415円・ブック・グローブ社　(4)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社　(5)『私たちの選んだ子どもの本　改訂新版』1050円・東京子ども図書館　(6)『全訳　遠野物語』1680円・無明舎出版　(7)『モダンタイムス』1890円・ナナロク社　(8)『これから昔話を語る人へ　語り手入門』1680円・小澤昔ばなし研究所　(9)『慟哭の谷』1631円・共同文化社　(10)『ミラクルガール』1575円・無明舎出版　(11)『校庭の雑草図鑑　増補改訂版』2100円・南方新社　(12)『低線量・内部被曝の危険性』1050円・耕文社　(13)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『昭和プロレスマガジン　２６』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　５月号』420円・東京かわら版　(3)『黄色い部屋はいかに改装されたか？増補版』2100円・フリースタイル　(4)『古河公方と北条氏』2400円・岩田書院　(5)『定食と古本』1575円・本の雑誌社　(6)『早川雪洲』1365円・崙書房　(7)『思考のリフォーム』1365円・冬弓舎　(8)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(9)『円周率１００万桁表』330円・暗黒通信団　(10)『素数表１５００００』375円・暗黒通信団

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『ダムカード大全集』1890円・スモール出版　(2)『沖縄人はどこから来たか　改訂版』1050円・ボーダーインク　(3)『中川　運河　写真』3150円・ユニテ　(4)『白神学入門』1050円・弘前大学出版会　(5)『吉田類の土佐酒ｎｏｔｅ』1000円・高知新聞社　(6)『渡り鳥の世界』1260円・山梨日日新聞社　(7)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社　(8)『はじめての糀料理』1260円・西日本新聞社　(9)『九州の蔓植物』2415円・南方新社　(10)『北東北ほろ酔い渓流釣り紀行』1785円・無明舎出版

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：http://neil.chips.jp/

トピックス ―― ★★★

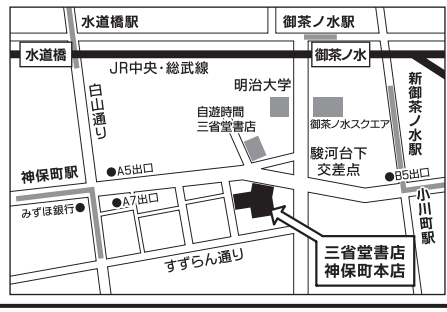
▼5月5日に北海道電力泊原発３号機が停まり、日本国内全原発の稼働が停止するという最近の世の中の動きと関連させて、当センター取扱の原発関連書籍新刊を紹介したいと思います。／ひとつは**『原発を拒み続けた和歌山の記録』**（「脱原発和歌山」編集委員会編寿郎社刊1575円）。「紀伊半島にはなぜ原発がないのか？　いのちの源…海・山・川を守り未来へつなげた住民たちと関西電力との戦いの軌跡」（帯文より）「かつて和歌山県には四町の五ヶ所に原発計画があった。…しかし現在、三重県を含めた紀伊半島には原発はまったくない。原発ゼロの『秘境』である。」（「あとがき」より）／もう１冊は**『福島原発事故　－内部被爆の真実』**（柴田義貞編長崎新聞社刊1260円）。「Ⅰ福島・チェルノブイリ原発事故による食品汚染　Ⅱ福島原発事故におけるリスクコミュニケーション」（目次より）／そして、もう１冊**『脱原発時代の北海道』**（吉田文和著北海道新聞社刊1470円）。「原発が止まった今だから考えなければいけないことがあります。省エネと再生可能エネルギーで原発分の電力は十分まかなえるのです。ドイツでできるのです。日本でも必ずできます。」（帯文より）

▼長らく品切となっていたブックグローブ社刊**『絵本図書館　－世界の絵本作家たち』**（光吉夏弥著）が新装版となって甦りました（2415円）。旧版とはISBNコードが変わっています。新装版は978-4-938624-25-5。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店　４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。